

活動報告会報告書

団 体 名	一般社団法人 HUG
実 施 日 時	令和4年10月13日（木曜日）から令和5年3月16日（木曜日）まで全21回。 毎週木曜日（学校修了時～18時00分まで） ※事前説明会（個別面談会）を令和4年9月25日・26日に実施
事 業 費	439,240円（うち補助金：400,000円）
事 業 概 要	子どもの貧困とは、生まれ育った環境によって、栄養バランスの取れた食事ができなかったり、教育の機会が得られない子ども達のことをいう。 それぞれの家庭にどんな事情があろうとも、生まれ育った環境によって子どもの将来が閉ざされることがあってはならないし、何より子どもの貧困は子どものその後の人生にさまざまな影響を及ぼすことになる。 特に、高校や大学、専門学校に進学したいけれど、経済的な理由で教育の機会が失われたり、「頑張っても仕方がない」と将来への希望をなくし、学ぶ意欲をなくす子どもがいることは、国や地域社会、起業の資源である人材に深刻な影響を与え、大きな社会的損失となる。 このようなことから、生活困窮家庭の児童生徒を対象に、学習支援事業「きそ塾」を開設し、義務教育段階で習得すべき学習内容の基礎的、基本的事項の完全習得を目指した。 募集は生活困窮家庭に向けて案内を行い、希望した7家庭（8名の児童）の受講者が決定した。 開所前に保護者と本人と運営者との三者面談を行い、「きそ塾」の方針説明や保護者と本人の希望等を聞いた。その中で、「これまでずっと本人も保護者も塾で勉強したい（させたい）」という思いがあったが、経済的理由から利用することができず苦しい思いをしていたこと」「無料の学習支援塾ができてありがたいこと」などの声が多く聞かれ、中には涙を浮かべながら話される保護者もいた。 講師は、指導経験のある外部講師にお願いし、そのサポートとして補助員と秀峰高校生徒16名によるボランティアが支援にあたった。 補助員は、学習会場の準備、問題プリントの作成、児童の学習と出欠の記録、保護者への連絡などを担当した。 高校生ボランティアの生徒は、児童とマンツーマンで問題の解法のヒントを与えながら、行き詰まった場合は、一緒に考えていくよう役割分担を行った。 補助員と高校生ボランティアのもう一つの重要な役割は、児童との会話や交わりを通して、児童が自分の内面を話しやすい環境作りであることも事前に確認した。 児童は、毎週木曜日に学校が終わると自分で「きそ塾」に来所する。 到着すると「手指消毒・検温」を済ませ、来所時刻を各自で「出席簿」に記入する。 その後児童は、自ら進んで学校の宿題に取り組む。 講師が設定した時刻になると、事業所が準備をしたプリント学習に取り組むことになるが、学校の宿題が終わらないと続きを家で行わなければならないため、必然

	的に宿題には集中して取り組む姿が見られるようになった。 学習の様子は補助員がカメラを撮影し、学習の状況を記した文書に写真を添付して保護者だけのグループLINEを毎回発信した。児童が欠席する場合の連絡も、保護者のグループLINEで行われるようになり、無断で休む者はいなかった。 保護者には、仕事が終了後に夕食の買い物等を済ませてから迎えに来てもらうことをお願いした。これまでは、母親が家に帰ると「宿題は終わったの？」とイライラする状況があったようであるが、「きそ塾」から親子で一緒に自宅に帰ると、家族の団らんにより持てるようになったと保護者は口々に言われる。 しかし、少なからず祖母が児童の迎えに来る家庭もある。母親は仕事が終わっていないために、祖母が迎えに来るようである。創造するに児童が学校から帰っても一人か若しくは祖母が待っている状況であろう。母親の帰宅が遅ければ、親と一緒に「読み声」の学習をしたり、学校での出来事を母親に話す状況は余程でない限り十分には望めないだろう。子どもの居場所作りが求められる現状を改めて認識させられた。
事業実績（参加者数、主な経緯費、連携した団体など）	[生活困窮家庭]：就学援助家庭、非課税家庭、児童扶養手当受給家庭を指す。 [支援者]：外部講師1名（2,000円／時間、交通費500円／1日） 補助員1名（無償） [受講生]：8名 [主な経費]：人件費144,500円、教材費8,781円 用紙・インク等消耗品費他285,959円 [連携団体]：小林秀峰高等学校インターアクト同好会
工夫した点	1. [学習支援方法の工夫について] 前半は学校で出された宿題の進み具合に応じた支援を行い、当該学年相当の学習内容の習得がなされているかを確認した。その結果、高学年になるに従ってそれまでの学習内容に理科が不十分な単元があることが分かった。 そのため、冬期休業終了後の学習支援では、小学校第1学年からの単元確認を行い、理解が不十分な単元を洗い出し、復習補完することを行った。これにより、問題を解く速度と正解率に変化が見られるようになった。 また、学習時間をある程度確保するため、それまで勤務時間終了後にまちまちに迎えに来られる保護者に対し、18時以降の迎えをお願いしたところ、快く協力していただけた。 2. [学習環境の工夫について] 学習内容によっては、児童同士がお互いに協力して課題を解決することが有効であったり、逆に自分の力だけで解くことが必要な学習などがある。事前に学習内容を確認した上で、講師と補助員が協力して座席の配置を決め、会場全面のホワイトボードに記した上で学習に取り組みさせることにした。 3. [衛生面での工夫について] 児童に入出時における手指消毒・検温はもちろんであるが、補助員が「きそ塾」

	の開始前・終了後に室内及び机・椅子の消毒を徹底して行った。また、常時換気扇を使って換気に努めた。 4. [下校時の安全面の工夫について] 欠席の確認やその日の学習内容の状況を保護者のLINEグループで毎回行うことにより、誰が欠席なのかを事前に把握した上で、学校から配布される時間割をコピーし、記載してある下校時刻から「きそ塾」への到着時刻を予測して児童の来所を待った。 さらに、保護者の迎えも同一の方とは限らないことが多いため、迎えに来られた時刻と児童との続柄を毎回記録し事故防止を行った。 5. [小学校との連携等の工夫について] 事業開所時点で、南小学校・小林小学校両校の学校長とお会いし、参加する児童の名簿を渡したうえで、毎週木曜日は下校後に「きそ塾」を経由して帰宅することの了解を得た。 また、前の事例にも記したように、家庭の状況等により特に配慮が必要な児童については、学級担任と連絡を取り合うことで、双方から同歩調での支援が行えたことは非常に意義深いことであった。
反 省 点 (課 題)	学習支援という目的達成に向けては、学習に対する意欲付け、学習習慣の定着、自ら課題を見つけ解決しようとする能力の育成など、段階的に行う必要がある。そのため、次のような課題が考えられる。 1. プリント類を解かせるという取組だけでは、学力をつけるという意味では不十分である。ましてや実施回数が週一回だけでは、十分な効果を上げることはできない。実施回数を増やし、様々な学習支援の方法を工夫する必要がある。 2. 学習支援の効果をより上げるために、綿密な支援プログラムを構築する必要がある。 3. 本年度は算数の学習を中心に行ってきたが、読解力を高めるための国語の学習も取り入れた支援が必要である。 4. 生活困窮家庭では、子どもには学費負担の少ない県立高校への進学を期待している親が多い。このことから、義務教育段階の基礎・基本の確実な習得をめざすため、中学校卒業まで継続的な支援が必要である。

今後の計画	1. 学習支援を行う対象者となる生活困窮家庭に対して事業の周知を充分に行い、特に学力面で不安を持つ児童生徒の利用を容易にする。 2. 義務教育終了までの継続的な支援が必要なため、高校進学に向けて中学校卒業までの継続的な支援を行いたい。 3. 学力をつけるという目的を達成するためには時間の確保が必要である。そのため、児童生徒の学年に応じた実施回数・実施時間を工夫する必要がある。
--------------	---

※ 行の幅は自由に増減してください。ただし、A4判内で簡潔に作成をお願いします。

※ 作成したチラシ等がありましたら併せて提出をお願いします。

小学3年生 から 6年生の児童対象

無料学習支援塾 [きそ塾]

今の授業がわからない人を応援します。

■ 受講対象 小林市在住で、経済的に余裕がない家庭の3年生から6年生の児童

■ 受講料 無 料

■ 人 数 10名程度



■ 場 所 「きそ塾」 小林市細野1617（コインルームさんの1階）

■ 学習時間 学校通学日 毎週木曜日 18:30～19:30

長期休業日 別途計画しご案内します。

■ 日 程 (1) 事前説明会 9月20日(火)以降に個別に実施
(2) 放課後学習会 10月12日(水)～令和5年3月16日(木)の6ヶ月間
(3) 修了式 令和5年3月23日(木)

※ 冬休みは集中学習会を予定しています。

■ 申込方法 下記QRコードを読み取るか、以下のサイトから申込みをお願いします。

[<https://issha-hug.com>]



■ 申込〆切 令和4年8月31日(水)

■ そ の 他 ① 希望者多数の場合は、抽選にて選抜させていただきます。
② 受講決定者は、9月7日(水)にメールで通知いたします。

決定通知のメール内で、事前説明会(個別)の期日をお知らせしますので、
必ずお子様同伴でおこしてください。

■ 問合せ先 一般社団法人HUG きそ塾担当：井手口敏朗 (☎ 080-3900-1812)